

【参考資料】

2011 年度のまとめ

1. 2011 年度のまとめ

(1) 2011 年度の事業方針

(ア) 2011 年度は以下を事業方針の基調として事業活動をすすめてきました。

- ① 「組合員が自ら参加し、身近に感じる生協」をめざします。
- ② 店舗の基盤づくりと組合員の利用実態に合わせた店舗運営を行います。
- ③ 「魅力ある大学づくりに貢献する生協」をめざし、「学生支援」をキーワードに生協にできることを考え、取り組みます。
- ④ 「大教大生協のビジョンとアクションプラン」づくりに着手し、2012 年総代会での策定を目指します。

(2) 2011 年度の活動のまとめ

(ア) 課題① 「組合員自らが参加し、身近に感じる生協」をめざします。

- 学生委員会を中心に、組合員が直接お店や商品に関わることでできるとりくみをすすめます。
- 大教大ならではの学生組合員の生活や悩みに基づいた取り組みを、学生委員会を中心に行っていきます。
- 学生委員会を中心に、組合員同士が交流しコミュニケーションを広げる取り組みをおこないます。
- 情報や楽しさのあふれる店舗づくりを行い、「また来たい」「何度でも来たい」と思われるお店を目指します。

- ① 学生委員会が中心となって組合員が直接お店に関わる場面を増やし、生協らしい「情報や楽しさのあふれる店舗づくり」をすすめることができました。
 - 前期に実施した「紙パックダービー」では、学生委員会が店頭で商品の売上がグラフ化したり直接組合員への呼びかけを行いながら、組合員の店舗や商品への関心を高めることができました。また、後期に実施した「ご当地商品企画」では、実際に企画として並べる商品を選んだり POP を書くことで店舗に参加してもらいました。
 - 阪神事業連合企画の「丼メニューコンテスト」では、多くの組合員からのオリジナルメニューの応募、総代会での投票、学内での試食会を経て 10 月以降の企画メニューへとつなげました。大教大内での選考の過程で、より多くの組合員が関われるよう工夫することができました。
- ② 学生委員会では新入生の不安を解消する取り組みや、バイク事故を防止するための活動など、「大教生の悩みや生活実態」に基づいた活動を行い、多くの組合員が参加しました。
 - 毎年行っている新入生の友達づくりをサポートする新歓企画は学内での「たこ焼きパーティ」に 2 回で 217 名、学外で実施したクイズツアーの「大阪ええとこ行って Q」には 22 名と多くの参加者が集まり、たくさんの新入生の大学生活への不安を解消することができました。

- 組合員の健康や安全を考えるととりくみとして7月に「夏の大健康診断」を実施し、食生活相談やアルコールパッチテスト、各種測定などを行い120名ほどが参加しました。
 - 共済の給付事例でバイクや原付の事故が多いことから「バイク無料点検」の企画を行いました。総代会で総代と一緒に作成した「大教大危険マップ」の配布や、大学生協保険センターの「保険相談窓口」も合わせて実施し、バイク・原付に乗る組合員に安全への意識を高めてもらうことができました。
 - 12月には「震災復興支援もちつき大会」を実施し、冊子を配布して東北の復興支援に関心をもってもらったり、もちつきのイベントを通じて募金にとりくみました。
- ③ 学生生活実態調査での組合員からの生協評価は、前年よりも点数が上がりました。全国の大学生協の中でも、組合員からの評価は引き続き高いクラスにいるといえます。
- 生協はあなたにとって身近・まあ身近 91.7→92.9% (全国平均 87.7%)
トータルで見ると生協を好き・まあ好き 89.8→90.3% (全国平均 86.3%)
 - 一方「一言カード」のとりくみが職員の体制変更等にもなって後退し、認知度も前年より下がってしまいました。
一言カードを知らない 5.3%→10.2% (全国平均 28.7%)
- 学生のほとんどが「自分が生協の組合員である」と自覚し、「生協店舗は組合員のものである」ことを実感してもらえるよう、「一言カード」や店舗のとりくみに関わる組合員をさらに増やしていくことが課題です。

(イ)課題② 店舗の基盤づくりと組合員の利用実態に合わせた店舗運営を行います。

- 店舗のQSC(クオリティ、サービス、クレンジネス)レベルの向上に取り組みます。
- 売上データに基づいた「単品管理」の精度を購買・食堂ともに上げていきます。
- 適正な剰余を残し、組合員への還元や施設改善のための投資ができる店舗運営を目指します。

- ① 2011年度には、大学や大阪教育大学教育振興会の協力も得ながらPETIT SHOPの新規オープンと、Restaurant FORETの店舗リニューアルを生協投資で実施しました。
- 「昼食休憩時の混雑緩和」を目的に、大学からのご要望にお応えする形でB3棟2階に昼食対応商品をメインにしたミニコンビニを2011年10月に新しく設置しました。
 - 2012年2月には老朽化した家具の買い替えを機に、「学内の皆さんが学外からのお客様をご案内できるきちんとしたお店」をコンセプトに、レストランの改装を生協投資で実施しています。スタッフのホールサービス研修も行い、より高いレベルのフルサービスレストランへリニューアルしました。
- ② 「単品管理研修」に参加した購買のパート職員を中心に、「おすすめがわかりやすく迫力のある売場」づくりが実現できました。
- コンビニコーナーでは元セブンイレブンのコンサルタントによる研修を受け、店舗で組合員が「迷わず選べる」「買物が楽しくなる」ような迫力のある売場づくりを行っています。
 - 書籍や文具日用雑貨などのコーナーでも、新刊や文庫・新書の品揃え、企画の定期実施や季節感のある品揃え、POPなどによる宣伝を強化し、変化のある棚づくり・店づくりを行っています。

③ 2011年度は供給高は減少したものの、適正な人件費コントロールや減価償却費の減少等で経費も抑制できたため、生協全体では26,195万円、4.1%（前年2.5%）、購買部で24,774万円、5.9%（前年5.9%）、食堂部で27,349万円、14.6%（前年11.5%）の税引前当期剰余を残し、累積赤字も解消できました。

- 供給高（売上）は前年に比べて4.6%減少していますが、新入生向パソコンと卒業アルバムの計上方法変更によるものです。食堂部はミールカードホルダーの増加もあって前年より3.0%の増加となりました。今後とも日々の客数を増やすことに注力しながら、適正な経費の執行を行うことで、定期的な店舗改装ができるよう安定的な経営を目指します。

④ 組合員の満足度の指標としている学生生活実態調査の結果は、購買部は全体的に評価が高まっていますが、食堂部では課題を残しました。（*は評価が上がった項目）

	購買部		食堂部	
	11年	10年	11年	10年
総合評価（10点満点）	7.0点*	6.9点	7.2点	7.3点
欲しい商品（好みのメニュー）がある	62.4%*	50.4%	61.5%	65.5%
店内がきれい・店内が明るく清潔	84.5%*	83.9%	69.5%	77.7%
経営数値（経常剰余）	5.9%	5.9%	14.6%*	11.5%

（ウ）課題③ 「魅力ある大学づくりに貢献できる生協」をめざし、「学生支援」をキーワードに生協でできることを考え、取り組みます。

- 「学生の学びと成長」を支援する事業や就職支援の取り組みを強めます。
- 様々な形での学生支援や大学への協力について全国の情報を集め、大学と協議します。
- 「学生支援」の一環として、「学生総合共済」の加入・給付件数を高めることを位置づけ、年間を通じてとりくみます。

① 生協主催の教採策講座は、2011年3月実施の集中講座、6月実施の大阪府・大阪市・堺市対策講座をもって一定の役割を終えました。

- 大学の取り組み・講座を補完する位置付けで取り組んできた事業ですが、キャリア支援センター主催講座の充実を受け、12年度より企画・募集を中止しました。
- 今後は、教採の準備や就活が始まる3回生までに、さまざまな資格を取得したり、社会で必要とされるスキルを身につける経験の場づくりに着手していきたいと考えます。
- 大学・キャリア支援センターとの協議は進みませんでした。2012年度に策定するビジョンとアクションプランを踏まえ、今後大学との協議の場を設けていきたいと考えています。

② 大学全体で取り組まれた「省エネキャンペーン」では、生協も積極的に店舗や食堂ホールの節電に取り組みました。

- 店舗・ホールの照明消灯のほか、ショーケースや自動販売機の照明消灯、エアコンの温度管理、事務機器の電源OFFなどを実施し、組合員へのお知らせや啓蒙も含めて、積極的に実施しました。

- ③ 毎年取り組んでいることですが今年も、大学が地域と共催する行事や留学生支援、大学への寄付など以下のことに取り組みました。
- 柏原国際交流フェスティバルでの協力
 - 留学生後援会への参加と冠奨学金の贈呈
 - 自動販売機の売上からの「学生支援」のための寄附（2010年度4%→2011年度5%）
- ④ 学生総合共済は、残念ながら11年度の新入生加入率を下げてしまいましたが、ポスターやカウンターでの接客を通じて、年間を通じて加入と給付をよびかけました。
- 生命共済の加入者数は11年度入学者467名と前年の531名より減少しました。給付申請に来店される組合員の3人に1人以上が共済に加入しておらず、給付を受けることができないため、その場で加入のよびかけを都度行っています。
 - 学生委員会の健康安全企画等でも生命共済への加入・給付よびかけを行っていますが、特に給付の多い体育会クラブとの連携や、病気のおこりがちな教育実習の時期などでの強いよびかけを行っていくことが今後の課題です。
- ⑤ 東日本大震災の復興支援活動として、特に東北地域の大学生への「学生支援」としての募金活動に積極的にとりくみました。
- 店舗の他、入学手続き会場や総代会での募金よびかけ（2011年3月～）
 - 復興支援メニュー・支援募金つき飲料の店舗での販売（4月、7月、12月、1月）
 - 自動販売機での支援募金つき飲料の販売（7月～）
 - 学生委員会復興支援もちつき大会（12月）
 - 大教大生協に寄せられた募金総額は以下のとおりです。大学生協連を通じて、大学生協共済連が給付を行っているお見舞金に活用されています。
被災地学生支援募金 337,294円 原発被害学生支援募金 29,809円

(エ)課題④「大教大生協のビジョンとアクションプラン」づくりに着手し、2012年総代会での策定を目指します。

- 大阪教育大生協が中・長期的に目指すこと＝ビジョンと、それらを実現するためのアクションプランについて、検討を開始します。
- 組合員や生協職員へのアンケート、学長副学長へのインタビュー、理事会での論議を経て、2012年度総代会にて策定を行います。

以上